



太陽と海と緑 ー観光文化のまち
沖縄県本部町



もとぶ

本部町の誇りある歴史を未来へつないでいく

沖縄県北部に位置する本部町は「あっ！」という驚きや感動、心を動かす要素にあふれています。
昔から変わらない豊かな森と美しい海。新たなものを受け入れ、地元の産業として発展させていく柔軟な住民の心。
「日本一心豊かなまちづくり」をモットーにここ、もとぶでしか得られない「あっ！」という感動は
これからも、もっともっと増えていきます。



本部町長
平良 武康

町長挨拶

太陽と海と緑－観光文化のまち本部町

沖縄本島の北西部に位置する本部町は、西に東シナ海を望み、東に雄大な自然の営みを感じさせるカルスト地形や八重岳と、美しい景観や恵まれた自然環境に育まれ、時代の移り変わりとともに変遷を重ねながら、多くの先人たちの努力により発展してまいりました。

本町には、年間500万人以上の観光客が訪れます。初夏を告げるカツオや、真夏の太陽を連想させる真っ赤なアセローラ、シークワサー、パインアップルなど、一年を通して旬の特産品が溢れ、海洋博記念公園や沖縄美ら海水族館に代表される観

光施設や、備瀬のフクギ並木など、見所も枚挙につきません。
また本町では、まちづくりの基本として、融和・協調・個性を大事に、町民生活の豊かさを第一に据えております。町を取り巻く課題を克服し「日本一心豊かな町づくり」を進めていきます。

この町勢要覧では、本部町の地勢や文化、特産品などの情報をほんの一部紹介しております。ご覧いただき本部町をより一層ご理解いただければ幸いに存じます。そして是非、本部町にお越しいただき、その良さをお確かめ下さい。

町民一同心よりお待ちしております。



円錐カルストから眺める
本部町の夕日



動画をチェック！

あっと

@

もとぶ

産業

豊かな自然環境を活かし、町の活性発展を目指す。

拠点産地認定を受け、年間約500トンが収穫される 本部町産シークワサー

県内有数の柑橘産地である本部町は、古くからシークワサーが自生しており、町民にも馴染みのある果実です。

血糖値や血圧の上昇を抑える効果が期待されるノビレチンとタンゲレチンという成分を含むことから、県内外からも注目を集めています。

町内では、7月から11月頃まで収穫され、年間約500トンもの生産量を誇ります。平成26年度に飲料加工場を整備、平成27年度に町、生産者、加工業者、消費者等で組織される「もとぶ産シークワサー生産・消費拡大推進協議会」を設立し、平成28年度に拠点産地として認定されました。シークワサーを使った加工品を製造するほか、青切りシークワサーを新ブランド「もとぶパワー酢みかん」として町内外へPRしています。



本部町の農業を元気にするネットワークの会長
知念 一義さん

「本部町の農業を元気にするネットワークの会」は、平成26年1月に町内の各農業者団体によって設立されました。花木や畜産、野菜、果樹類などの農業者団体が現在22団体加盟しています。生産品目の枠を超え情報や資源の共有による産業の活性化を図っています。

もとぶの人



【もとぶかりゆしゴールド】

貿易自由化の影響で長らく栽培が途絶えていたパイナップルですが、新品種の苗を取り入れ、平成28年に新ブランド「もとぶかりゆしゴールド」が誕生。糖度が高く高品質な実を付けます。



【マグロの養殖】

本部町では、平成2年にクロマグロ養殖をスタート。毎年400トン以上のマグロが全国の魚市場を通じて寿司屋、鮮魚店、量販店などで販売されています。



【肉用牛の飼育】

町内には、肉用牛農家13戸の飼養農家と約2500頭の肉用牛がいます。給餌にビール粕や泡盛粕などを配合して育てた「もとぶ牛」は、農林水産大臣賞を受賞し、本部町のブランド牛として地位を確立しています。



【肉用ヤギの飼育】

山羊肉需要の増加を背景に、平成23年度に「もとぶピージャー生産組合」を設立するなど、優良山羊の改良増殖及び山羊肉の安定供給を目指しています。毎年主催している「もとぶやぎ祭り」も好評です。

新たなあじま産業で町を活性化

Topics

「もとぶ産農水産物消費拡大推進条例」

やっぱり もとぶ産品が1番さ～！



令和元年6月制定
「もとぶ産農水産物消費拡大推進条例」
この条例は、本部町（以下「町」という）の農水産物の消費拡大を図るため、町、生産者、事業者、消費者が連携して、地元農水産物の自産自消や自産他消、安定供給・品質の向上、特産品の開発などを推進することを目的に、令和元年6月に「もとぶ産農水産物消費拡大推進条例」を施行しました。現在、町内では観光施設等を活用した特産品の販売に力を入れるとともに、飲食店・ホテルでは積極的に本部の農水産物を使うように取り組んでいます。

もとぶ産農水産物消費拡大推進条例

地域一体となって 地元農水産物の消費拡大に取り組む

本部町では、町、生産者、事業者、町民それぞれが連携して、地元農水産物の自産自消や自産他消、安定供給・品質の向上、特産品の開発などを推進することを目的に、令和元年6月に「もとぶ産農水産物消費拡大推進条例」を施行しました。現在、町内では観光施設等を活用した特産品の販売に力を入れるとともに、飲食店・ホテルでは積極的に本部の農水産物を使うように取り組んでいます。

あっと



あっと

@
もとぶ

観光

年間500万人が
訪れる県内屈指の
観光エリア。

豊かな自然に囲まれた 地域資源を活用して 誘客を目指す

本部町は、県内最大の観光施設である沖縄美ら海水族館をはじめ、美しい海が一望できる西海岸、豊かな自然に恵まれた山々が広がり、年間500万人以上の観光客が訪れる観光のまちです。平成29年には本部港が「国際旅客船拠点形成港湾」に指定され、今後ますます観光客数の増加が見込まれます。

また、リゾートホテルの建設も次々に行われ、コンドミニウム、民泊など多彩な宿泊施設が充実しています。宿泊施設は5年間で約3倍に増加し、町内滞在者の増加が期待されます。

一部の観光地だけでなく、「自然」「歴史・文化」「食」などの地域資源を活用した観光プロモーションを推進することで、観光客が更に「もとぶ」を楽しめるまちづくりを目指しています。



本部町観光協会
会長
當山 清博さん

本部町にはたくさんの観光資源があり、観光立町として質の高い「うとういむち（おもてなし）」で、リピートされる観光地作りを促進しています。今後は地域の自然、文化を守りながら、観光からまちの活性化につなげ、持続可能な観光地を目指していきます。



【国営沖縄記念公園（海洋博公園）】

昭和50年の沖縄国際海洋博覧会を記念して設置された国営公園で、多くの観光客が訪れる県内最大の観光施設。沖縄美ら海水族館をはじめ、沖縄の自然、歴史、文化を楽しめます。



【フクギ並木】

平成27年2月9日に、フクギが息づき、共に暮らす町として「フクギの里宣言」を行いました。「備瀬のフクギ並木」は、住民が管理を行っており、沖縄の原風景と出会える人気観光地です。



【円錐カルスト】

山里地域一帯には、国内唯一の円錐カルスト地形があります。富士自然動物園協会により「ふるさとの富士」に認定された「本部富士」や「ウフグシクムイ」もこの地区にあります。



【水納島】

本部半島の西の海上に浮かぶ水納島は、島の形から「クロワッサンアイランド」とも呼ばれています。白砂が美しく透明度の高い海はダイビングに最適で、年間約6万人が訪れます。



もとぶ元気夕市

地域の農業と
産業の活性化を図りながら
観光客も楽しめる夕市を開催

本部町では、毎週土曜日に町産業支援センター（アジマーもとぶ）前でもとぶ元気夕市を開催しています。夕市では野菜や果物、特産品などの販売のほか、町内芸能団体などによるステージイベントも実施。町民のコミュニケーションの場であると同時に観光客も楽しめるイベントとなっています。

あっと
@



あっと

@

もとぶ

暮らし

子どもの成長を
サポートする
住みやすいまちに

子育て支援住宅の 整備を積極的に進め、 生活しやすい まちづくりを推進

全国的に少子高齢化が問題となる中、本部町では子育て支援を積極的に展開しています。その施策の一環として、子育て世代のための町営住宅の整備を進めており、平成30年度には字新里に2棟・16戸を整備しました。今後も令和3年度までに字謝花、具志堅、嘉津宇に合計4棟・24戸を整備していく予定です。子育て世代が生活しやすいまちづくりを推進し、若年層の定住を促すことで、人口増加及び地域活性化を図っています。



地域子育て支援拠点
もとぶっこ
仲田 優子さん

「もとぶっこ」では、親同士が子育てに対する悩みを共有し、交流をもつことを目的とした、子育て相談や講座の開設などの親子で楽しめる場の提供を行っています。今後は子育て世帯の居場所づくりを広げていき、地域一体となって子育てを支援する仕組み作りを行います。

もとぶの人



【本部町子育て世代包括支援センター】

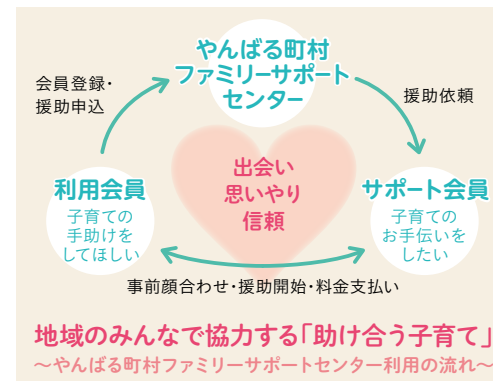
子育て世代包括支援センターを役場内に設置し、妊娠・出産・子育てに関する各種の相談に対応するほか、必要な情報提供・助言・保健指導を中心に支援を行っています。



【放課後児童クラブ(学童)】

町内に3箇所ある放課後児童クラブでは、児童たちの健全な育成を図るため、適切な遊び及び生活の場を提供しています。令和3年4月には、町内で初となる公設民営の学童が開所する予定です。

新たに施設の設置や整備を進め、子育てを支援



【やんばる町村ファミリーサポート】

やんばるの9町村と連携し、ひとり親家庭や経済的なサポートを必要としている家庭に支援事業を実施。育児の援助会員を募り、活動の調整、講習会、交流会を行っています。



【安心して学習できる学校整備】

児童生徒が安全な環境の中で学習に取り組めるよう、老朽化した校舎の改築や附属設備の改修、空調整備などに取り組んでいます。令和2年4月には、小中一貫校の「上本部学園」が開校しました。

Topics



子ども子育てゆいまーる基金

未来ある子どもたちが
豊かに暮らせるように
基金を設置して教育や
貧困対策をサポート

「子どもは地域全体の人材であり、地域全体の宝である」という考えのもと、平成31年度に「本部町子ども・子育てゆいまーる基金」を設置しました。本基金を活用し「学力の向上」「子どもの居場所づくり」「子育て世帯への支援」などに取り組んでいます。

あっと

@



あ
っ
と

@

もとぶ

伝統

先人から伝わる
島の文化を守り
後世につなぐ

シニグや豊年祭など 地域に伝承されている 多彩な民俗芸能

本部町には、祭祀や年中行事などに伴って伝承されている民俗芸能があります。代表的なものは、豊作・豊穰を祈願するシニグや豊年祭です。

シニグは、現在町内11字で旧暦の7月17日から26日の間に行われ、行事の最終日に女性たちが神アサギ前や遊び庭で「シニグ舞」を奉納します。瀬底、具志堅、備瀬のシニグは、町指定無形民俗文化財に登録されています。

豊年祭は、町内6字で3～5年回りで開催され、地域の路地を練り歩く「道ジュネー」や獅子舞、棒術、舞踊などの「村踊り」が行われています。瀬底の「獅子舞」、渡久地の「松竹梅」、並里の「満名棒」、伊豆味の「長伊平屋節」は、町指定無形民俗文化財となっています。



渡久地行政区
区長
中曽根 義人さん

渡久地区の伝統行事である豊年祭と大綱引きは、旧暦8月15日頃に子年と午年は綱引き、卯年と酉年には豊年祭を行い、約300年以上の歴史があります。令和元年に旗頭を新調し、令和2年には渡久地伝統芸能保存会を立ち上げ、若い世代を中心に地域の活性化を図っています。



【ピージャーオーラサイ】

瀬底では昔からヤギの飼育が行われ、住民の娯楽としてヤギを闘わせる「ピージャーオーラサイ」が盛んです。毎年5月には大会が開催され、多くの観光客が訪れ賑わいをみせます。



【手踊りエイサー】

太鼓エイサーが主流の沖縄ですが、本部町では、三線弾きの歌に囃しを返しながら踊る「手踊りエイサー」が多くの字で伝承されており、特徴的な伝統文化のひとつとなっています。



【健堅ハーリー】

毎年旧暦の5月に、航海の安全や豊漁を祈願するハーリーが、健堅区の浜崎港で開催されます。約80年の歴史がある伝統行事で、3年に一度、地域外のチームを招待する大会も行っています。



【藍染め】

本部半島のほぼ中央に位置する伊豆味は古くから「琉球藍」の産地として有名で、現在も希少な琉球藍の生産に力を入れています。優しい風合いの藍染め製品は特産品として人気です。



上地完文翁銅像[沖縄空手・上地流]

伊豆味出身の上地流の開祖の銅像が海外空手家が訪れる巡礼地に

沖縄の空手3大流派のひとつ、上地流の開祖・上地完文翁の銅像が、平成30年4月に八重岳桜の森公園内に建立されました。生誕の地である伊豆味を眺め、晩年を過ごした伊江島を背に威風堂々と立つ銅像は、海外の空手家も多く訪れる巡礼地となっています。

あ
っ
と
@



シークワサー

町内の契約農家が育てたシークワサーを使い、絞汁からバック詰めまでを町内で一貫して行っている。豊かな香りとスッキリとした酸味を楽しめる。



アセローラ

植物オイルにアセローラを漬け込んで成分を抽出した天然素材だけで作られた保湿オイルと「Motobuの香り」と名付けられたアセローラの香りのフレグランス。

マグロ

徹底管理された餌で育てられたクロマグロは安心、安全。また、特殊冷凍技術により旨みを損なわず、新鮮な状態を保持している。



カツオ

がじゅまるなどの薪を使い昔ながらの製法でつくられるかつお節は、香ばしく豊かな香りを楽しめる。県内中南部から足をこび買い求める人も多い。



ヒージャー（やぎ）

【もとぶ山羊肉・もとぶ山羊汁】
本部町で飼育されているヤギをもっと身近な存在にしたいと、ヤギ肉を使った商品を開発。



【ヤギミルクジャム】

新鮮なヤギミルクを使用したジャムは、ミルクのしっかりとしたコクとさらりとした甘さを楽しめる。



特産品

豊かな自然環境に恵まれた本部町
ガラスややちむんなど、



もとぶ牛

「沖縄生まれ 沖縄育ち」もとぶ牧場が所有する牛で、日本格付協会が認定した 3等級以上の黒毛和牛。厳格な管理の下、牧場オリジナル発酵飼料で育てられている。



陶芸

本部町には南蛮窯と登り窯など3つの窯元が存在し、伝統的なシーサーや日常的な食器など様々な陶芸品が作られている。窯元によって製法が異なり、それぞれ独特の手触りや風合いを楽しむことができる。



ガラス工芸

町内で作られるガラス工芸品（琉球ガラス）は鮮やかな色合いや気泡が美しい。独自の製法により耐熱性のあるガラスも製造されている。



木工芸

【桜の木の離乳食スプーン・桜の木のスプーン・桜の木のフォーク】倒木した桜の木を使い、離乳食用のスプーンやフォークを製作。赤ちゃんが握りやすいように改良を重ねた形は愛らしく、使いやすいと好評だ。



フクギ染め

【フクギ染めの手ぬぐいと小物入れ】
防風林としての役目を終えたフクギの皮を使い染料を抽出。時間をかけて染め上げられたフクギ染めは、おだやかで優しい色合い。



工芸品

には、すぐりむん（優れもの）が豊富。
伝統的な工芸品も注目です。



マフィン

豆腐を作る際に出たおからを使い、トッピングにアセローラやタンカンといった本部町の特産品をあしらったマフィン。パッケージには本部町の自然をイメージしたイラストも。



泡盛

こんこんとわき出る清水を用いて仕込まれた泡盛は風味豊か。多くの町民に愛飲されている。40年間熟成された貴重な古酒も存在する。



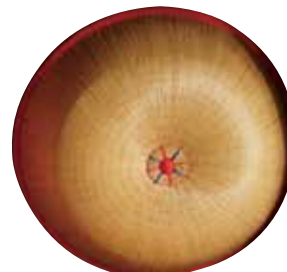
藍染め

沖縄の伝統的な染料である琉球藍は、現在は本町や北部の一部でしか生産されていない。藍染でただ一人の国選定保存技術者である伊野波盛正氏は、伝統の製法で琉球藍特有の鮮やかな紫紺を発色、その技は注目を集めている。



むんじゅる笠

瀬底で栽培された麦わらで編まれたむんじゅる笠は、かつては農夫や漁師が使用していた。現在は琉球舞踊や豊年祭の小道具として愛用されている。作り手は 3人しかおらず、一つ一つ手作りのため、貴重な工芸品となっている。



文化財



町立博物館

「郷土と暮らしと文化」、「郷土の海」、「郷土の自然」をテーマとした3つの展示室には、貝塚から出土した遺物や民具、近海で見られるサンゴや貝殻、町に生息する昆虫や鳥の標本などを展示。



県内屈指の観光エリアである本部町には
悠久の時を語り継ぐ文化財が残されています。

先人たちの歩みを現代に伝える大切な財産でもある文化財。
町の歴史を学び、かつての風景に思いを馳せてみましょう。



戦争遺跡

本部監視哨跡

【もとぶかんししょうあと】

谷茶の高台に位置しており、戦時中は飛来する敵の飛行機をいち早く発見し、正確な情報を日本軍の作戦室に報告するための見張り台として使用されていました。



県指定史跡

浜元サチピン貝塚

【はまもとさちぴんかいづか】

浜元の西海岸に突き出た琉球石灰岩台地から、海岸崖下の斜面にかけて形成された貝塚。沖縄貝塚時代前・中期における遺跡立地をよく示しており、希少な遺跡。



町指定有形民俗文化財

具志堅の神ハサーギ

【ぐしけんのかみはさーぎ】

祭礼の日に守護神を招いて祭祀を行う神聖な場所。石柱が低く茅葺の屋根をのせた昔ながらの姿を残しています。建物内部にはタムト木（タモト木）と呼ばれる神木が置かれています。



町指定民俗文化財：昭和52年指定

瀬底祝女の簪

【せそこのろのかんざし】

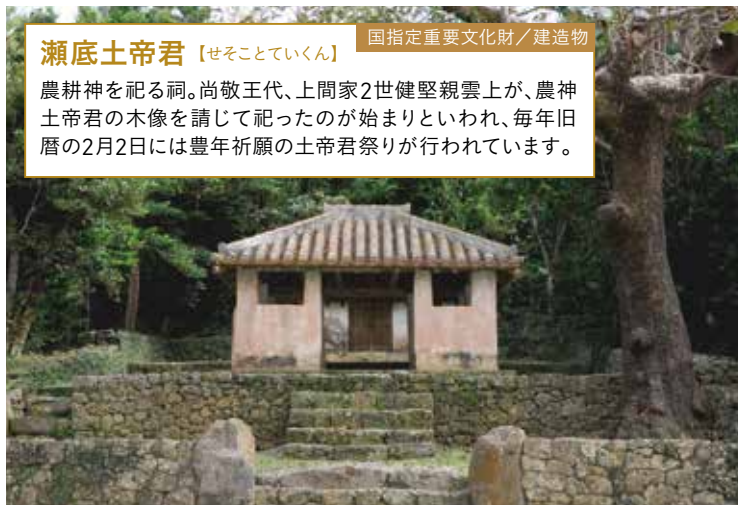
瀬底島の公儀祝女に代々伝わった簪で、首里王府から与えられたもの。祝女は村の祭祀を行う神職で、この簪は首里王府とのつながりを今に伝える貴重な文化財です。



塩川【しおかわ】

国指定天然記念物

本部町崎本部にある、日本で唯一、塩分濃度の高い河川。世界的にも珍しい川です。地域の人々からは、塩水の流れる川として「スガー」と呼ばれ親しまれています。



国指定重要文化財／建造物

瀬底土帝君【せそことていくん】

農耕神を祀る祠。尚敬王代、上間家2世健堅親雲上が、農神土帝君の木像を請じて祀ったのが始まりといわれ、毎年旧暦の2月2日には豊年祈願の土帝君祭りが行われています。



県指定天然記念物

大石原のアンモナイト化石

【おおいしはらのあんもないとかせき】

本部半島には古い地層が多くみられ、直径1cmから6cmくらいアンモナイトの化石を見つけることができます。およそ2億5千万年から7千万年前のもので、琉球列島の地史を知るための重要なものです。



県指定史跡

山川垣内権現洞穴遺跡

【やまかわかきのうちごんげんどうけつせいせき】

山川港原の西海岸に面した琉球石灰岩洞穴に形成された洞穴遺跡。地元では「ハチヌチグンジン」と称し、盛大な清明祭を開催。無文深鉢形土器やシャコ貝製漁撈用網遺物が採集されています。



県指定有形文化財／古文書

仲村家文書

【なかむらけもんじょ】

約400年前に琉球王府から発給された、辺名地の仲村家に伝わる3通の辞令書の総称。この辞令書から、当時の役職、三交代勤務の制度などが判明するなど、歴史を紐解く重要な史料となっています。



もとぶ八重岳桜まつり



シークワサー祭り



カツオのぼり



アセローラの日



海洋博公園サマーフェスティバル



本部海洋まつり(ハーリー大会)

祭り&イベント



歴史や伝統を感じる行事、四季を彩る祭りなど、本部町では、イベントがたくさん行われています。

EVENT CALENDAR

- | | | | |
|----|---|------------------------------------|---|
| 1月 | 1月初旬～2月／みかん(タンカン)狩り始まる
1月1日～3日／海洋博公園新春果報で～びる
1月中旬／海洋博公園全国トリマラソン大会
1月下旬～2月初旬／もとぶ八重岳桜まつり | 6月(旧暦5月4日)／健堅ハーリー
6月下旬／ドリーム飲もとぶ | |
| 2月 | 2月初旬～中旬／沖縄国際洋蘭博覧会
2月9日／フクギの日 | 7月 | 7月初旬／キンキン(健堅)ゴーヤスーブ
7月中旬／海洋博公園サマーフェスティバル
7月中旬／本部海洋まつり |
| 4月 | 4月～／カツオ漁始まる
4月1日～／海開き(エメラルドビーチ)
4月下旬／カツオのぼり掲揚 | 8月 | 8月初旬／やんばる青年エイサーまつり |
| 5月 | 5月／国定公園カルスト山ゆり祭り
5月／こどもまつり
5月／瀬底島ピージャーオーラサイ
5月／アセローラの日PRイベント
5月12日／アセローラの日 | 10月 | 10月上旬／シークワサー祭り
10月第2土曜日／カープチーの日
10月～11月／みかん(カープチー)狩り始まる
10月17日／沖縄そばの日
10月中旬／本部町そばの日フェスタ |
| 6月 | 6月10日／6月10日は本部(もとぶ)の日 | 12月 | 12月初旬／福祉まつり・もとぶ展
12月中旬～／ホエールウォッチング始まる |



沖縄国際洋蘭博覧会



もとぶ観光文化フェスタ



キンキン(健堅)ゴーヤスーブ



国定公園カルスト山ゆり祭り



もとぶ観光文化フェスタ



本部町そばの日フェスタ



やんばる青年エイサーまつり



あっと **本部町**
イラストMAP
@ Motobu town

illustration map

第4次 本部町 総合計画



太陽と海と緑－観光文化のまち

本町は、周囲を緑深い山々に抱かれ、ふもとには平地の広がりや満名川が見られ、海岸には白い砂浜や豊かなイノーが見られるなど、自然に恵まれた町であります。また、多くの先人達が残してくれた英知や町民の誇り、活力を財産としながら発展してきました。本町の町づくりは、こうした財産を大切に、町民一人ひとりが潤いと活力に満ち、後世にも誇れる地域社会の実現に向け、町民が主人公となって取り組んでいくことが求められています。こうしたことから、本総合計画においては本部町民憲章をまちづくりの基本理念として掲げ、地域との協働のもとにまちづくりに取り組んでいくこととします。

- ① 産業・経済 | 活力と魅力が融和する元気なまちづくり
- ② 都市・集落環境、景観保全 | 豊かな自然を活かし共生する住みよいまちづくり
- ③ 健康・福祉、生活環境 | あたたかさや安らぎに満ちた癒しのまちづくり
- ④ 教育・文化 | 「武本部」の精神で、未来を担い、ふるさと愛を育む人づくり
- ⑤ 安全・コミュニティ | 強い絆と和を備えた柔軟なまちづくり

1

施策

産業・経済

活力と魅力が融和する元気なまちづくり



アセローラ畑



かつお節



輪ギクの栽培



タンカン

農林水産業の高付加価値化

農林水産業は、本町の基幹産業である一方、後継者不足や農業従事者の高齢化、社会構造の変化、農作物輸入の規制緩和等に伴い、経営体数が年々減少傾向にあります。そこで、生産環境や技術の向上、後継者の育成・確保、産物の特産品化・高付加価値化等に努

め、安定した農林水産業経営の確立を進めていきます。「地元ブランド」の創出への期待も高まっており、町全体でブランド化に向けた取り組みを継続していきます。



多機能型観光支援施設

地域力を活かした観光の高度化

沖縄県北部地域における観光拠点として本町が担う役割は非常に大きく、今後は数多く点在する様々な資源を十分に活かした着地型観光商品の開発や保養・滞在型観光プログラムを創出します。さらに、行政や観光関連団体のみならず住民やボランティア団体等が一体となったホスピタリティの醸成に努め、地域ぐるみの活動を展開していきます。

にぎわいと活力あふれる商工業の振興

観光産業と連動した新たな商業展開や農水産物・工芸を活用した特産品の開発を進めるとともに、経営改善普及事業や各種講習会といった基本施策を引き続き推進し、中小零細企業における経営の安定化を促進します。また、町産業支援センターや町物流拠点施設などを有効活用し、各種加工品及び製造業関連製品などの販路拡大を図り、工業を含めた新たな地場産業の振興に努めます。



本部町産業支援センター

産業・経済を担う人材の育成

高付加価値な特産品の開発をはじめ、産学官の連携などによる、新たな産業の創出、企業に携わる人材の発掘及び育成に力を入れます。また、雇用機会の創出と就労支援の取り組みや、仕事と生活の調和のとれた社会（ワーク・ライフ・バランス）の実現に向けたゆとりある就業環境を創り出します。

商工会と連携し、事業所への支援として、人材育成・技術向上のための研修会等を実施し、新たな起業家、人材の発掘・育成も支援します。



本部高校生インターンシップの様子

2

施策

都市・集落環境、景観保全

豊かな自然を活かし共生する住みよいまちづくり



町内の街並みと瀬底島の風景

豊かな太陽と海と緑の保全と創造

豊かな緑地や美しい海浜に代表される自然環境を今後とも守り続けていくことを基本としながら、八重岳桜の森公園周辺及び山里円錐カルスト公園などの整備を積極的に推進。エコツーリズムといった観光・レクリエーションでの利活用に加え、地域における環境学習への

の利活用を図ります。海域の保存については、赤土流出の防止など陸域からの被害低減に努め、海岸漂着ごみの清掃などを実施し、町民の自然保護・環境保全に対する意識高揚を促進します。



もとぶ手作り市

地域特性に応じた都市機能の配置

中心市街地では、川や港とともに育まれてきた歴史を活かした市街地整備を目指します。そのため、本部港（渡久地地区）や満名川を活用した観光・レクリエーション機能の向上に努め、観光客と地域の人々が交流するにぎわい空間の整備を推進します。また山地部の集落では、屋敷林や石垣、拝所、井泉といった歴史的資源を積極的に保全し、後世へと受け継いでいきます。

魅力ある集落空間の創造

本部町景観計画に基づき景観の保全を推進し、リゾート地域の適正な景観形成を図るため「本部町景観形成重点地区指定」を実施しています。集落景観を構成するフクギ並木や屋敷林、拝所、石垣といった資源を保全していくとともに、地域住民の意識高揚を図ることにより、沖縄独自の集落景観を創出します。



フクギ並木の小道



幹線道路

交流・流通の活発化を促す交通・情報網の充実

車社会に対応した円滑な交通と安全性を重視して、町民生活の利便性及び快適性の確保などを一層高める総合的な道路整備を進めます。また、児童生徒や高齢者、観光客などが主に利用するバスの路線網の改善にも着手。情報化社会への対応としては、観光や災害対応、広報など様々な分野で活用できるよう通信ネットワークの整備を推進します。

都市の快適性を高める基盤の整備

町民の生活環境の向上を目指し、河川・排水路、上下水道、公園を適切に整備します。また、「北部連携促進事業」などを活用し町営住宅の整備を行い、地域における定住環境の向上に努めます。

そのほか、高齢者・障がい者住戸の配置を検討するなど社会福祉的視点も重視し、定住人口の確保、快適な生活環境の形成を進めます。



桜の森公園の遊具

3

施策

健康・福祉、生活環境

あたたかさと安らぎに満ちた癒しのまちづくり



桜の森公園で遊ぶ子供たちの様子

未来を築く 元気な子どもの 育成

共働きや就労形態の変化に伴う保育ニーズを把握をし、待機児童解消へ向けた新規の保育園の整備計画を進めます。さらに、「一時預かり事業」・「ファミリーサポートセンター事業」・「子育て支援拠点事業」などの拡充をし

て、家庭保育の支援を充実させます。また、ひとり親家庭の自立支援のため、国や県などの制度に基づく各種支援の周知や利用促進を図るとともに子どもの貧困家庭の調査を行い、実態の把握にも努めます。

いきいきと暮らせる 健康長寿の推進

高齢者が住み慣れた地域で誇りを持って生活できるよう、生きがいづくりの充実を図りながら、自ら健康づくりや介護予防に取り組めるように、「運動教室」や「料理教室」など、各種事業を推進します。認知症高齢者等に対する総合的な相談窓口を充実させるとともに、医療・介護・生活支援などが包括的に確保される体制の強化を図り、地域であたたかく見守り支え合える地域づくりに取り組んでいきます。



老人スポーツ



海陽園関連施設での就労風景

障がい者も安心して暮らせる 環境づくり

「ノーマライゼーション」の理念に基づいて、障がいの有無にかかわらず、町民が相互に人格と個性を尊重し、安心して暮らすことができる共生社会の実現を目指します。各種関係団体等との連携を深め、自立支援給付、障害児通所支援などを実施するとともに、地域住民への障がい特性等などの理解促進などに努め、障がい者に優しい住みよいまちづくりを推進します。

みんなが健康で元気に暮らせる 保健・医療の充実

町民一人ひとりが「自分の健康は自分で守る」という自覚の下、様々な活動が行えるよう健康に関する知識の普及啓発を強化します。保健対策事業では、「健康日本21」などの基本理念に基づき、疾病の早期発見や早期治療に努めます。また、町民の健康増進及び疾病予防のため、施策の充実強化を推し進めるとともに、生活保護世帯に対して、就労等への相談・指導にも力を入れます。



住民健診の様子



海岸掃除

環境保全の推進

地球温暖化対策や省エネルギーなどの環境対策に積極的に取り組み、環境負荷の少ない循環型社会の形成を目指します。ごみの排出抑制やリサイクルなどによる資源循環を推進するとともに、不法投棄監視バトロールを行い、不法投棄の取り締まり強化を図ります。そのほか、生活排水対策や美化活動などによる河川環境や海域環境の保全と再生にも力を入れて、改善を目指します。

快適な生活環境の確保

良好な町民生活の確保に向けて、大気、水、土壌、騒音・振動などの環境質の保全と改善を図ります。施策としては、「台湾ハブなどの外来種対策事業」などを実施し、外来生物の個体抑制に努めます。また、「公害発生源の監視・指導」にも力を入れ、公害発生源の規制強化を図ります。そのほか、「動物愛護週間広報」などを実施し、ペットの適正飼養の普及に取り組みます。



ハブの駆除

4

施策

教育・文化

「武本部」の精神で、未来を担い、
ふるさと愛を育む人づくり



授業風景



短期留学



次代を担う 人材の育成

「進取の気性」「質実剛健」を兼ね備えた町民気質「武本部（ブームトップ）の精神」で、現代社会を主体的に乗り越えていける人材の育成に努めていきます。学校教育、生涯教育、ボランティア活動等の充実から健全な心と体を育み、新たな分野に情熱を持って挑戦する、ふ

るさと愛にあふれる人づくりを推進します。

また、ICT事業を導入し、電子黒板及びタブレット端末を活用した授業を実施するなどの工夫を講じて、確かな学力を身につける教育、個性を大切にする教育、国際化に対応できる教育に力を入れます。



町内サークル活動

郷土もとぶを愛する人づくり、 生涯を通して学ぶ豊かな人間形成

ふるさとへの思いが芽生える実践を推進し、地域を先導する人材の育成に注力します。地域住民の多様な学習ニーズに対応した各種生涯学習事業の展開を図るとともに、可能な限り本町の観光振興に寄与する人材の育成に努めます。また、教育機関や社会教育団体などの各種機関と地域との連携を深めつつ、生涯学習を推進する体制を確立し、町民が自発的に社会教育活動へ参加できるための普及啓発を促進します。

健全な心と身体を育む スポーツ・レクリエーションの推進

町民の健康維持・増進を図るため、スポーツ・レクリエーション大会など各種事業を展開します。基本的には既存の体育施設の利用促進を図りつつ、町民ニーズを把握した上で新たな施設整備を検討します。また、各種スポーツ大会の誘致を推進し、「プロサッカー教室」、「プロ野球教室」などを実施して、子どもとプロスポーツ選手との交流の場を作り、スポーツを通して県内外との人事交流といった機会の創出を図ります。



サッカー教室



文化協会の活動

地域の誇りある 歴史・文化の継承と創造

本町に関連する古い写真をはじめとする各種資料の収集を行うとともに、『本部町の文化財』については民俗のみならず、今後は動植物などその収録分野の拡大も検討。さらに、文化財を教育や観光面において活用するため、案内ガイドの養成に取り組みます。また、地域における各種団体の活動状況等の実態を把握した上で、関係団体との連携を図りつつ地域活性化に関する活動を推進します。

開かれた交流社会の創造

友好関係都市との交流促進を図り、児童生徒の学校間交流及び、外国への短期留学事業を推進します。また、国際的に活躍できる人材を育成するため、外国語教育に力を入れ、外国人青年語学指導員（ALT）を配置し、児童生徒が本場の英語に触れる機会を創出します。南米子弟の受け入れを実施してきた「南米子弟受入事業」は、今後も継続実施し、国際交流を図っていきます。



韓国留学生との交流

5

施策

安全・コミュニティ

強い絆と和を備えた柔軟なまちづくり



防災訓練

災害に強い まちづくりの 推進

本部町地域防災計画に基づき、食料の備蓄、地域住民の防災組織づくりを行います。また、避難路の整備、がけ地の防災事業など、ソフトとハードの両面からの防災体制の確立に取り組みます。危険箇所の改修・施設整備にあたっては、国や県と連携を図り必要に応じて検

討・対策していきます。消防・救急については、「本部町今帰仁村消防組合」を中心に地域の防火組織の強化を図るなど、住民の生命・身体及び財産を災害から保護する災害に強いまちづくりを目指します。

支え合いの地域社会の形成

地域の自発的なコミュニティ活動への支援策について検討を行い、活力のある地域づくりを目指します。また、まちづくりに関わる各種委員会等での意志決定段階において積極的に女性参画を推進。男女共同参画社会の実現に向け努力するとともに、町民ぐるみで交通安全に対する意識高揚を図るとともに、青少年の非行防止、犯罪の未然防止に努め、安心して暮らせるまちづくりを推進します。



交通安全出発式



交通安全街頭指導



瀬底夏まつり

交流と連携による 協働のまちづくりの推進

町民と行政のパートナーシップの構築・強化を図るため、広報活動の拡充や情報公開の推進、説明責任の徹底に努めます。また、NPO・ボランティア団体等の創出・育成に力を入れ、地域のニーズや実情に応え、きめ細かな施策を展開します。複雑多様化する行政需要に対応するため、合理的かつ弾力的な行政組織を構築し、事務処理の簡素化、効率化を図ります。



豊年祭



議会・行政

～ 活力あふれるまちづくりを目指して～

本部町議会議員



議長
石川 博己



副議長
崎浜 秀進



宮城 達彦



喜納 政樹



松川 秀清



座間味 栄純



具志堅 勉



仲宗根 須磨子



具志堅 正英



伊良波 勤



小橋川 健



比嘉 由具



崎浜 秀昭



真部 卓也



町民サービスの向上と
安心・安全な暮らしのための防災拠点として

本部町役場新庁舎

平成26年10月に落成した本部町役場庁舎は、行政サービスをより迅速、確実に提供するため工夫が施されています。どなたでも利用しやすい通路やトイレにはバリアフリー化が施され、防災拠点としての機能も強化されています。



町長
平良 武康



副町長
伊野波 盛二



教育長
知念 正昭



旧本部町役場庁舎

昭和34年に落成し、その後、増築などを行いながら57年間、町の発展を見守ってきました。



旧上本部村役場庁舎

昭和46年の合併後、昭和49年までは本部町役場謝花支所として、平成26年までは公営企業課（水道課）として活用されてきました。

本部町行政区



瀬底

瀬底島と水納島からなる。
【文化財】瀬底土帝君一邸（国指定重要文化財：平成9年指定）、ウツミツグイ（町指定無形文化財：平成9年指定）、瀬底祝女の勾玉、瀬底祝女の簪（町指定民俗文化財：昭和52年指定）、瀬底貝塚と御嶽、瀬底大橋
■瀬底69-1
TEL・FAX 47-3741



渡久地

【文化財】渡久地神社・番所跡、渡久地橋、具志川御嶽
■渡久地123
TEL・FAX 47-3036



崎本部

【文化財】塩川（国指定天然記念物：昭和47年指定）、崎本部のウミイ
■崎本部15
TEL・FAX 47-2310



大東山

【文化財】八重岳・嘉津宇岳・安和岳自然保護区（県指定天然記念物：昭和47年指定）、山里の円錐カルスト（国定公園）
■東430-1
TEL・FAX 47-2301



健堅

【文化財】健堅大親（健堅之比屋）の墓、ハーリー
■健堅1061-1
TEL・FAX 47-4197



伊豆味

【文化財】琉球藍製造（国選定保存技術：昭和52年指定）
■伊豆味95
TEL・FAX 47-2300・FAX 47-5879



大浜

【文化財】大浜の有孔虫石灰灰（町指定天然記念物：昭和50年指定）
■大浜867-1
TEL・FAX 47-4540



伊並

【文化財】伊野波の石くぶり、ムックジャ・ジューフ二毛、八重岳野戦病院跡（戦争遺跡）、八重岳の桜
■伊野波487
TEL・FAX 47-3423



谷茶
辺名地

【文化財】仲村家文書（県指定有形文化財：昭和53年指定）、辺名地のシヌグイ、本部監視哨跡（戦争遺跡）
■谷茶445-13
TEL・FAX 47-2108



浜元

【文化財】浜元サチビン貝塚（県指定史跡：昭和49年指定）
■浜元121
TEL・FAX 48-2305



謝花

【文化財】獅子舞
■謝花124
TEL・FAX 48-2511



具志堅

【文化財】神ハサギ（町指定有形民俗文化財：昭和52年指定）、シニグ舞（町指定無形民俗文化財：平成9年指定）、具志堅貝塚、具志堅の村落
■具志堅158
TEL・FAX 48-2311



新里

【文化財】ハーリー
■新里593
TEL・FAX 48-2312



備瀬

【文化財】備瀬のシニグ（町指定無形民俗文化財：平成9年指定）、大折目馬（町指定無形民俗文化財：平成9年指定）、備瀬の福木、備瀬の拝所
■備瀬457
TEL・FAX 48-2371



豊川

【文化財】大石原のアンモナイト化石（県指定天然記念物：昭和49年指定）、山川垣内権現洞六遺跡（県指定史跡：昭和49年指定）
■山川716-1
TEL・FAX 48-2351

友好都市

北海道 南富良野町

南富良野町との親善交流

本部町と南富良野町は、昭和62年に本部町、平成元年に南富良野町で開催された国民体育大会のカヌー競技をきっかけに交流が始まり、平成8年に「友好の町」として盟約を締結しました。以来、相互訪問などの文化体験交流を重ね、本部町親善交流団としてこれまでに、300人以上の児童生が南富良野町を訪れています。



友好都市

福岡県 小郡市

小郡市との児童交流がきっかけ

本部町と小郡市の交流は、昭和56年に当時の小郡青年会議所（現・みい青年会議所）主催の児童交流を目的とした「少年の船」の一行が本部町を訪れ、当時の本部青年会議所（現・本部町商工会青年部）が受け入れたことがきっかけで始まりました。平成29年11月に本部町、小郡市、本部町商工会青年部、みい青年会議所の四者による「友好のまち」協定を締結。現在では、両市町の祭りイベントにおいて、お互いの特産品の紹介や物産展を行うなど両団体の人事交流、さらには経済面にまで拡大し、活性化しています。



交流事業

人と人、 文化をつなぐ交流

南米本部町出身、子弟研修生受け入れ事業

本部町は、戦前から戦後の復興期にかけて、南米に渡った本部町出身者から多くの援助をいただきました。その恩返しや、本部町と南米諸国のかけ橋となる人材の育成を目的に平成7年から、ペルー、アルゼンチン、ブラジルの3カ国から研修生の受け入れを行っています。

研修生は、語学研修や、三線教室、町内の各種イベントなどへの参加を通して沖縄や本部町の文化を学び、その多くが南米3カ国と本部町をつなぐ本部町人会の活動のけん引役として活躍しています。

資料編

- 34 統計から見る町民の暮らし
- 35 土地および気象
- 36 地形・面積
- 37 人口
- 38 行政組織図
- 39 歴代町長・議長
- 40 財政
- 41 特別会計
- 42 産業
- 45 教育
- 46 福祉・保健衛生
- 48 消防・警察
- 50 選挙
- 51 公共機関その他施設
- 52 本部町の歴史
- 53 本部町のあゆみ
- 65 本部町の豆知識

